

避難者支援チーム結成

中野栄避難者支援チーム 結成

平成 23 年 3 月 26 日
中野栄学区
町内会協議会長
[Redacted]

- ①避難者が、避難所生活から平常の生活に戻るための手助けをする。
②避難所から退出した人のうち、必要な人のフォローをする。
③中野栄小学校避難所のサポート。

2. 組織図(案)

```
graph TD; Chief["(チーフ) [Redacted]"]; School["中野栄小学校"]; Staff["区派遣職員"]; SubChief1["サブチーフ [Redacted]"]; SubChief2["サブチーフ [Redacted]"]; Chairman["学区内 民生委員児童委員 町内会長"]; Chief --- School; Chief --- Staff; Chief --- SubChief1; Chief --- SubChief2; SubChief1 --- Chairman; SubChief2 --- Chairman;
```

- 本部 [Redacted] コミュニティセンター
学校内 相談室 …
- 行政、関係機関との連絡は本部で行う。
- 第一回会議
3月28日(月) 午前10時 [Redacted] コミュニティセンター 第二会議室

資料の 15 ページです。X避難者支援チーム結成という資料です。中野栄学区町内会協議会長の名前があります。前会長 (H) が強いリーダーシップを発揮し、東日本大震災以後のあらゆる課題に対処してきました。震災の影響で体調を崩し、T に交代しました。支援チームは何をするのかというと、まず避難者が避難所生活から平常の生活に戻るためのサポート。次に避難所を廃止した後、必要な人の支援フォローをする。そしてX小学校避難所の応援などの目的で支援チームを急きよ結成し活動しました。チーフは H。学校・行政そして町内会長、災害サポーターなどの地域住民が連携し、避難者支援 (自宅避難者も含めて) を行いました。

避難所閉鎖と心のケア

<p>3月26日(震災16日目)</p> <p>朝食後、あいさつ コミセン避難所閉鎖</p> <p>3月30日(震災20日目)</p> <p>心のケア相談室開設 4月1日、4月4日、市民活動室に</p> <p>3月31日(震災21日目)</p> <p>・19時 避難所集約についての説明会 中野栄小学校 避難者41名 ・都市ガス復旧</p> <p style="text-align: right;">27</p>	<p>4月1日(震災22日目)</p> <p>14時 町内会長、民生委員打合せ 心のケア研修会</p> <p>4月7日(震災28日目)</p> <p>23時36分 震度6強の地震、津波警報発令 中野栄小避難者多数</p> <p>4月9日(震災30日目)</p> <p>中野栄小避難所閉鎖</p> <p style="text-align: right;">28</p>
---	--

3月26日(震災16日目)、朝食後コミセン避難所を大掃除し閉鎖。

3月31日(震災21日目)、都市ガス復旧(X地区のライフラインがすべて復旧)。

4月1日(震災22日目)、第1回心のケア研修会「支援者のメンタルヘルス」を開催。町内会長と民生委員20名出席。講師は仙台市精神保健センターの職員で、内容は二次災害やPTSDの予防でした。

4月7日(震災28日目)23時36分に震度6強の地震があり、津波警報発令、X小学校へ避難者は多数ありました。

4月9日(震災30日目)、X小学校の避難所閉鎖。

4月13日(震災34日目)、中野栄学区災害対策連絡本部解散。

<p>4月11日(震災32日目)</p> <p>13時 中野栄小入学式</p> <p>4月12日(震災33日目)</p> <p>14時 心のケア研修会 (兵庫県心のケアチーム春田医師)</p> <p>4月13日(震災34日目)</p> <p>午前 中野栄小後片付け掃除 中野栄学区災害対策連絡本部解散</p> <p style="text-align: right;">29</p>	<p style="text-align: center;">思ったこと、気付いたこと</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、地域力が大切。普段の協力。 2、リーダーシップを取る組織が重要。 3、災害発生時は何としてもマンパワー。 ・日赤奉仕団などの組織化 4、避難所のありかた。福祉避難所的なものの設置。 ・医療、介護、看護の地域ネットワークを。 <p style="text-align: right;">30</p>
---	---

まとめ：思ったこと気づいたこと

X地区災害対策連絡本部の主な仕事としては、(1)町内の被害状況の把握と対処、(2)行政・学校との連絡確保、(3)避難所の開設準備と運営をするという主旨の実施要項を作り、機能する組織づくりを目指しました。具体的に大事だと思ったことは、第一に、地域力が大切で常日頃の協力と信頼感、助け合い体制が重要であること。第二に、リーダーシップを執る組織が重要なこと。第三に災害発生時は何としてもマンパワー。地域での人材確保(看護師経験者、福祉関係経験者)とさまざまな団体との連携(一般企業、地域の商店など)。第四番目は避難所のありかた。福祉避難所的なものの設置については、地域の連携と関係団体の協力、他県からの支援ボランティアなど大勢の方々のお力添えで比較的スムーズにできました。

<p style="text-align: center;">思ったこと、気付いたこと</p> <p>5、町内会役員、民生委員、福祉委員の連携。 ・小地域福祉ネットワーク活動が重要。</p> <p>6、連絡手段、方法の確保。 ・災害時優先電話、無線電話。</p> <p>7、隣近所の声掛け、助け合いの体制醸成が重要。</p> <p style="text-align: right;">31</p>	<p style="text-align: center;">思ったこと、気付いたこと</p> <p>8、広報に関連して ・指定避難所を知らない人がいた。 ・自分の責任で情報を得る努力を。携帯ラジオの常備。</p> <p>9、照明、電源の確保に関連して。 ・投光器が不足した。テレビ、パソコン利用の安定した電源の確保。</p> <p>10、ガソリン、灯油の供給対策。毛布など備蓄の対応。</p> <p style="text-align: right;">32</p>
--	---

次に五番目ですが、町内会役員、民生委員、福祉委員、災害ボランティアなど仙台市で組織されている小地域福祉ネットワーク活動が役に立ちました。

六番目は連絡手段の重要性。

七番目隣近所の声がけ、助け合いの体制など。常日頃からコミュニケーション作りのおかげと思います。

八番目は広報。指定避難所、一時避難所を知らない人も多くいました。あるいは自分の責任で情報を得る努力をしていなくて依存心の強い人が多くいました。

九番目、照明・電源の確保がむずかしかったこと。X小学校、Xコミセンに3,000人以上が避難していたためです。十番目ガソリン、灯油、石油ストーブなど供給対策、毛布などの防寒具の備蓄の対応について。今後、これらの10項目の課題について解決していきたいと思います。

消防団の活動

消防団の3.11は

消防団出花部

- ・地震発生直後、ポンプ車で広報活動。
- ・津波、出花地区にも襲来。
中野栄駅前では避難誘導、交通整理
要支援者の救助活動
- ・翌日以降の活動
救出活動、危険物の探索

消防団栄部

- ・地震発生10分後、ポンプ車広報開始。
大津波警報発令、仙石線以北に避難を。栄、出花地区、
アウトレットモール地区を広報。
- ・栄地区内の火災確認巡回
- ・避難所開設準備の手伝い。中野栄小、中野中。
- ・徒歩帰宅者の誘導。
- ・翌日以降は、救出活動。行方不明者の搜索。
- ・電気開通に伴う火災予防広報。停電地域の防火防犯広報。

- 8 -

X 地区消防団の活動は2つの消防団がそれぞれ地域で、地震発生直後の広報開始。津波襲来の避難誘導、交通整理、徒歩帰宅者の誘導、避難所開設準備の手伝い、救出活動と行方不明者の搜索など広範囲にわたる災害援助という大変な職務や活動を行いました。災害直後から不眠不休活動と現場を目のあたりにし二次災害が心配でした。

町内協議会によるアンケート

アンケートにみる3・11

平成23年11月6日
 中野栄学区町内会協議会
 3・11に学ぶ実行委員会
 間宮 義雄

1. はじめに

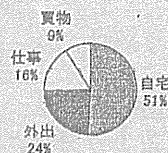
東日本大震災(3月11日)発生の際、中野栄小地域福祉ネットワーク、町内会、老人クラブの方々、一人ひとりが「自分の身は自分で守り、その後どう動き、何に気づいたか」などを地域福祉的視点、コミュニティ防災の視点、また豊かな人生経験からの視点からアンケート調査し、今後の防災対策を検討する。

2. 会員構成(アンケート回収をもとに) 「アンケート調査期間(4月～7月)」

- (1)小地域福祉ネットワーク 25名(19%)
 - (2)学区町内会協議会 51名(39%)
 - (3)老人クラブ(合同) 55名(42%)
(栄一丁目～栄四丁目町内会の老人クラブ)
 - (4)性別、男性82名(63%)、女性49名(37%)
- (合計・131名)

自宅	67名
外出	31
仕事	21
買物	12
計	131名

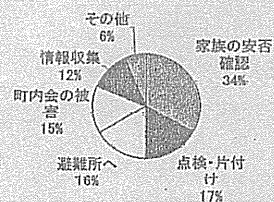
3. 地震発生時どこにいましたか



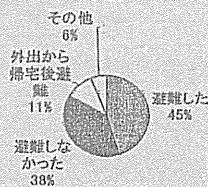
家族の安否確認	77件 (複数回答)
点検・片付け	39
避難所へ	39
町内会の被害	35
情報収集	28
その他	19
計	232件

避難した	59名
避難しなかった	50
外出から帰宅後避難	14
その他	8
計	131名

4. その後どのような行動を



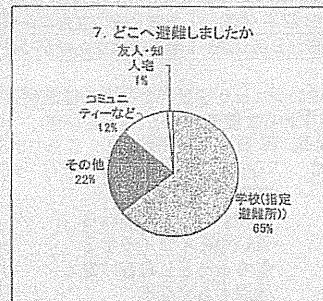
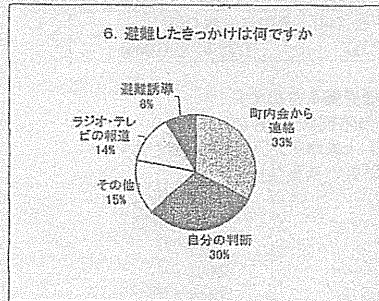
5. あなたは避難しましたか



次にアンケート調査をしました。東日本大震災(3月11日)から翌月4月～7月の期間で中野栄学区町内会の支援者を中心に、町内会役員・民生委員・福祉関係者・老人クラブなど131名に調査依頼した。調査内容は、地域福祉的な視点、コミュニティ防災の視点、豊かな人生経験者という視点で実施した。

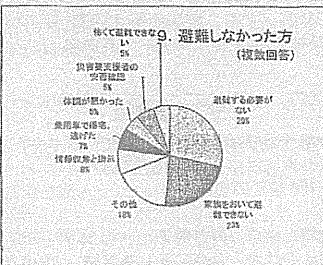
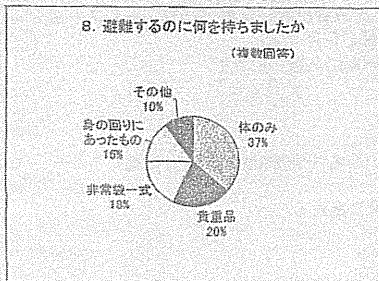
町内会から連絡	24	名 (避難した方: 帰宅途中の方)
自分の判断	22	
その他	11	
ラジオ・テレビの報道	10	
避難誘導	6	
合計	73	名

学校(指定避難所)	47	名
その他	16	
コミュニティーなど	9	
友人・知人宅	1	
計	73	名



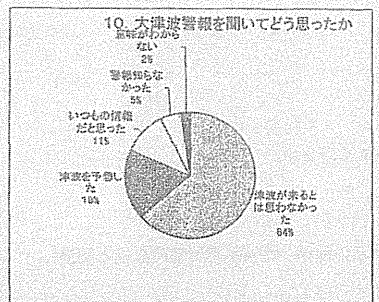
体のみ	32	件
貴重品	18	
非常袋一式	13	
身の回りにあったもの	13	
その他	9	
合計	85	件

避難する必要がない	21	件
避難を促して避難できない	17	
その他	13	
情報収集と指示	6	
避難所で滞在し続けた	5	
休日が多かった	4	
災害発生直後の不安定期	4	
休んで避難できない	4	
計	74	件



津波が来るとは思わなかった	65	名
津波を予知した	24	
いつもの情報だと思った	14	
避難知らなかった	7	
津波がわからなかった	3	
合計	111	名

学区町内会協議会単位



11. 今回の大震災での各町内会の被害状況の把握について(各町内会全体)

おおむね把握できた31件(81%)	被害程度の判断がむずかしい19件(17%)
情報が入らない16件(16%)	まだ把握ができてない2件(4%)
その他1件(2%)	合計 51件(100%)

学区町内会協議会単独

12. 日常の防災活動が役に立ちましたか（自主防災組織、防災訓練、防災の広報など）（各町内会の全体）

少し役に立った22名(43%)	あまり役に立たなかった12名(24%)	その他8名(16%)
大いに活用できた5名(10%)	全く役に立たなかった4名(7%)	合計51名(100%)

13. 大震災による強いショックを受けたあとの健康状態（代理受傷も含めて）

- (1) 以前と変わらず健康である、44名(34%) 心身の不調者87名(66%)
 (2) 心身の不調者 87名の不調件数 225件であった(1人あたり2.6種類にあたる)

- 内訳として
- ①何をするのもおっくうだ 考え方がまとまらない 39件
 - ②夜眠れない 35件
 - ③体がだるい 疲れる 32件
 - ④いつもイライラする 24件
 - ⑤ちょっとした音に驚く 24件
 - ⑥涙もろくなる 18件
 - ⑦便秘ぎみ 風邪など病気にかかりやすくなった 18件
 - 持病が悪化した 18件
 - ⑧お酒の量が増えた 17件
 - ⑨食欲がない 10件
 - ⑩その他 8件

- (3) 震災ストレスからの避難者へのアプローチの仕方や、支援者自身が背負い込むストレスへの対処法などのテーマで、研修会を3回開いた（4月2回、5月1回）
 「仙台市精神保健福祉センターと兵庫県心のケアチームにお願いした」

小地域福祉ネットワーク、学区町内会協議会

14. 大震災発生後のボランティア活動について⇒「やられた方」65名「やれなかった方」11名
 「やられた方」の内容について（複数回答）

- (1) 65名の方が158項目の活動を行った（一人あたり2.4項目にあたる）
 (2) 内訳として

- ①安否確認と励ましの言葉をかけた 36件(23%)
- ②炊き出し、給水、食料品配りの手伝い 28件(18%)
- ③避難所運営のスタッフや手伝い 23件(15%)
- ④被災者のお話を聴いたり、そばに寄り添う 15件(10%)
- ⑤避難所開設と運営、調整 13件(8%)
- ⑥被害者宅の家の片付け、清掃 12件(7%)
- ⑦義援金、支援金の寄附 10件(6%)
- ⑧町内会の災害ゴミ片付け 6件(4%)
- ⑨救急・救命活動 5件(3%)
- ⑩ケガ人、子ども、病人のお世話 4件(2%)
- ⑪その他 6件(4%)

15. 今回の大震災で何が一番必要と思われましたか（自由に書いてください）

- (1) 顔の見えるお付き合い
 ①町内会員の連携 ②ご近所付き合いの大事さ
- (2) 備えあればうれいなし
 ①ガソリンの確保 ②水等の備蓄(2~3月分) ③保存食の確保 ④非常持出袋の点検と補充
 ⑤保険など備えをすることの大切さ
- (3) ライフラインの復旧を早急に
 ①電気、ガス、水道のできるだけ早い回復 ②あかりが欲しかった

- (4) 正しい情報の共有化
 - ①正確な情報収集を迅速に伝達できるシステム ②通信手段、移動手段の確立(無線機の活用)
- (5) 自分自身、家族との連携
 - ①自分の心身の健康を保つ ②家族、親戚を含め連絡を速やかに取れる方法を考える
 - ③何をおいても自分の身を考えて「てんでんこ」に逃げる
- (6) 避難所開設と運営
 - ①避難所の指定が少ない。食料の備蓄を検討 ②役所との連絡がとれない
 - ③避難所運営に関する権限の委譲
- (7) 避難所の設定見直し(より高台へ)
- (8) その他
 - ①防災準備を万全に!!(再認識する必要性)
 - ②常日頃の心の準備を
 - ③地震の後、津波を警戒すること(テレビなどで情報の確認)

文 責
間宮義雄

結果の詳細は時間の関係で説明できませんが、資料を見てください。15の「今回の大震災で何が一番必要と思われますか」の設問への回答を紹介します。(1)顔の見えるお付き合い(2)備えあればうれいなし(3)ライフラインの復旧を早急に(4)正しい情報の共有化(5)自分自身、家族との連携(6)避難所開設と運営(7)避難所の設定見直し(8)防災準備を万全に(再確認する必要性)常日頃の心の準備などがあがりました。「大震災で何を喪失し、何を再生したか」を各人が自己確認できるよう長い目で見たい対策を進めていきたいと考えています。少し補足すると(5)の自分自身、家族の連携については、①自分の心身の健康を保つ、②家族と親戚を含め速やかに取る方法を考える、③何をおいても自分の身を考えて「てんでんこ」に逃げるが回答されました。この「てんでんこ」に逃げるということがある地方で大きな反響を呼びました。それは「自分だけ逃げて他人を放りっぱなしで良いのか」という意見でした。一方、自分の身を考えて避難することが大切であるという意見もありました。

学区町内会協議会の活動報告と課題

中野栄学区町内会協議会の活動報告と課題

2024年11月14日
 中野栄学区町内会協議会
 防災対策連絡本部
 間宮義雄

1. 昨年11月6日(日)中野栄防災の集い シンポジウム 3.11に学ぶ「あの日・・・地域ではどう動き、何を思い、何に気づいたか・・・総括して次に備える」を開催し、大勢の方々が参加し、皆で考え、また来賓者からも貴重なアドバイスをいただき、「地域が持つ課題」を解決するために共通認識を持ち一緒に取り組む姿勢が重要であることを学びました。
2. これから具体化していく課題と取り組む対策

課題(思ったこと、気づいたこと)	どのように進めていくか
1. 地域力が大切、普段の協力	(1)「だれもが安心して暮らせる元気のある防災に強いまちづくり」を目指していろいろな行事を積極的に行っており普段の協力体制ができている。「みまもり散歩隊、夏まつり、わいわいまつり 他」 (2) 隣近所の声がけ、助けあいの体制が醸成されている
2. 災害発生時は何としてもマンパワー	(1) 災害支援サポーターの募集と養成講座の開催(各町内会より募集)「救急法・発災対応型訓練、こころの健康講座、他」 (2) 看護師経験者や無線従事者など災害時に役に立つ人材の確保 (3) さまざまな団体との連携(一般企業・地元の商店など)
3. 連絡手段、方法の確保 「災害時優先電話、無線電話」	(1) デジタルトランシーバー(登録局)による中野栄学区防災ネットワークの構築(高砂商工振興会及び共同募金会などの助成金で設置) (2) 地域防災放送の検討
4. 指定避難所のあり方 福祉避難所的なものの設置	(1) 中野栄小学校・中野中学校と防災会議(仮称)を開催し、町内会、学校、行政と連携をはかり「避難所開設運営フォロー」及び「福祉的避難所の設置」を具体的に検討をはじめ
5. リーダーシップを執る組織が重要	(1) 災害対策連絡本部設置の取り組みと運用の強化 (2) 中野栄コミュニティセンターの大災害時初動体制の確認 上記(1)(2) 参考資料を参照
6. 広報に関し (1) 指定避難所及び一時避難所を知らない人がいた (2) 自分の責任で情報得る努力	(1) 大規模震災の総合防災訓練の広報を通じ徹底をはかる (2) 自分の身は自分で守る(自助)の啓蒙活動をはかる「携帯ラジオの常備など」
7. 防災訓練のあり方	(1) 大規模震災の総合防災訓練(平成25年3月予定) (2) 図上訓練の実施予定
8. 単位町内会自主防災組織の強化と連携	(1) 単位町内会自主防災組織のあり方について討論会開催 (2) 各町内会の防災資料の見直し(情報の共有化) (3) 各町内会の防災資機材準備状況の把握 (4) 司令塔の役割と自覚

次のページの「中野栄学区町内会協議会の活動報告と課題」ですが、先ほど報告した中の「思ったこと、気づいたこと」の10項目について、今後、具体的にどのように解決していくかをまとめた資料です。

平成 24 年度から現在までの対策を取ってきた進捗状況を報告します。

- (1) コミュニティの強化として地域の行事（夏まつり、運動会、わいわいまつり）など開催し、顔の見える関係づくり、地域資源の掘り起こしと結びつきを積極的に行ってきました。
- (2) マンパワーの確保については、看護師経験者や福祉経験者、そして無線従事者、消防関係者など災害時に役立つ人材の掘り起こし、そして若い担い手の発掘と養成を積極的に推進しています。
- (3) 連絡手段・方法の確保では、デジタルトランシーバーを 8 基購入し、中野栄学区防災ネットワークの構築し総合防災訓練で活用しています（普段の行事でも情報交換などに使用している）
- (4) 中野栄学区町内会の新しい防災マニュアル作成「災害時、その時・地域はどう動く」を町内会全家庭に配布し、意識を持って行動するよう呼びかけました。分厚いマニュアルを作っても読む人が少ないので紙一枚にまとめました。
- (5) 単位町内会自主防災組織の強化と連携は、X 地区災害連絡本部に依存するのではなく、何よりもまず足元からの取り組みが重要です。地域が持つ課題を解決しようとする「使命感」、そして課題に対し一緒に取り組む「姿勢」を共通すること。その担い手になる司令塔の役割の自覚が大切だと考えています。